

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	Y.K.	学年(渡航時)	3
派遣先大学	ライデン大学		
国・地域	オランダ		
派遣期間	2025	年 8 月 ~	2026 年 7 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
culture and society of the netherlands; an inside view	レクチャーとフィールドワークでオランダの文化、社会を学ぶ
dutch debates	オランダにおける社会問題について議論する
lezen/woordenschat 1A, taalverwerving1	オランダ語の読みと単語
schrijven/grammatica 1A, taalverwerving 1	オランダ語のライティングと文法
spreken/luisteren 1A, taalverwerving 1	オランダ語のスピーキングとリスニング
dutch history1: from prehistory to patriot period, culture2	オランダの歴史
2 学期目	
履修科目	授業内容
writing/grammar 1b	オランダ語のライティングと文法
reading/vocabulary 1b	オランダ語の読みと単語
speaking/listening 1b	オランダ語のスピーキングとリスニング

留学レポート(1,500 字以上)

大学で学んできたオランダ語やオランダ文化を、実際に現地で生活しながら学ぶ一年間は、多くの発見に満ちた時間だった。中でも最も印象に残っているのは、日本を離れたことで、これまで以上に日本という国や自分自身の「日本人らしさ」を意識するようになったことである。

それまでは日本国内で地元と長崎を比較しながら生活してきたが、オランダでは比較の対象が「日本」という一つの国になった。例えば、スーパーでお寿司は魔改造されてフライドオニオンやマヨネーズが大量に使われたものが人気なこと、電車が定時に来ないことが多くそれを前提として社会が成り立っているらしいことには驚いた。一方で、バスの乗降時や店に入る際には挨拶を交わすことが自然なマナーであることや、コーヒーや紅茶を注文すると koekjes(クッキー)が添えられる温かな文化など、日本にはない魅力も数多く知ることができた。異国で生活する中で、日本の文化や価値観をこれほど意識することになるとは、留学前には想像していなかった。

また、留学中は、日本で当たり前だと思っていたことが決して世界共通ではないことを何度も実感した。街には物乞いをする人の姿が日常的にあり、公共交通機関は時間通りに来ないことが珍しくない。人々は仕事が終わるとすぐ帰宅し、多くの店は夕方五時頃には閉店する。さらに、トイレや接客といったサービスも無料ではなく、対価を支払うことが一般的である。このような異文化に触れる経験を通して、「当たり前」は国や地域によって大きく異なることを学び、一つの価値観だけで物事を判断せず、多様な可能性を考えられる柔軟な視点を身につけることができたと感じている。

授業でも、自分自身の視野を広げる経験があった。Dutch Debate では、多国籍の留学生とグループを組み、オランダの現代社会が抱える課題について議論した。意見が似通いやすいテーマだからこそ、多くの学生が自国の政治や文化、社会事情を例に挙げながら自分の考えを説明していた。その中で、自分の国について深く理解していなければ、自分らしい意見を十分に伝えることはできないと実感した。海外で生活するからこそ、日本について学び続ける必要性を強く感じた経験である。

さらに、この留学では「人との縁」の大切さも改めて感じた。大学一年次に長崎で出会ったライデン大学からの留学生とオランダで再会できたことをはじめ、母が高校時代のインドネシア留学で出会った友人を訪ねてノルウェー北部のサーミの町を訪れ、そこでサーミ語を教える日本人の方と出会う機会もあった。また、父の知人である大英博物館やアシュモレアン博物館の学芸員の方々から貴重なお話を伺い、さらにフランスでは父の高校時代の同級生でパリのミシュラン三つ星レストランのシェフともお会いすることができた。自分自身が築いた縁だけでなく、家族から受け継いだ縁にも支えられながら、多くの人との出会いが自分の視野や人生を豊かにしてくれることを実感した。そして、自分自身も人と人をつなぐ存在になりたいという思いを持つようになった。

留学前半は、日本とオランダの「違い」を見つけることばかりに目が向いていた。しかし生活が続けるうちに、後半では「違うくないこと」にも気づくようになった。日本人はこう、オランダ人はこう、と一括りに考えることは実際にはあまり意味がない。日本国内でも地域によって文化や習慣は異なり、同じ地域でも人それぞれ価値観は違う。オランダも同様で、これまで「ヨーロッパ」と一括りに考えていた世界には国ごとの個性があり、さらにオランダ国内でも町や人によって大きな違いがあることを知った。人や文化を安易に分類して理解したつもりになることは安心感につながるかもしれないが、現実はそのほど単純ではない。SNS を通じて世界中とつながることができる時代だからこそ、実際にその土地で暮らし、人と関わることでしか得られない学びがある。その経験こそが留学の最大の価値であり、この一年間で得た最も大きな財産である。

留学中の写真(10 枚程度) ※写真のキャプションをファイル名にすること。



88歳の祖母がヨーロッパまで訪ねてきてくれた



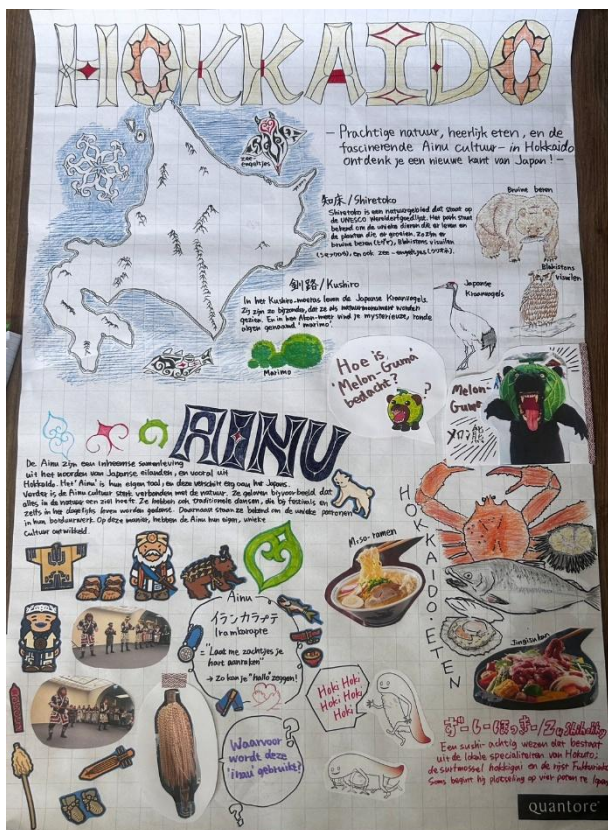
アシュモレアン博物館の伊藤さんと13年ぶりに再会



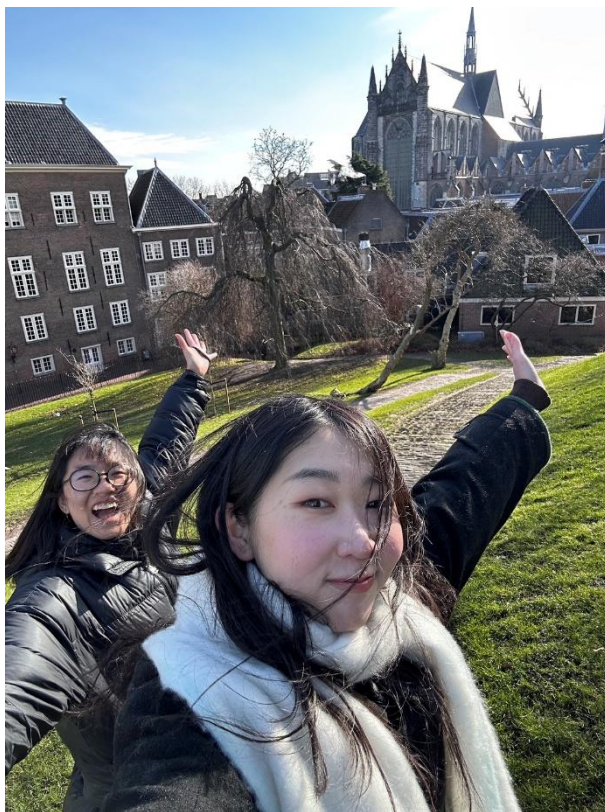
ノルウェーで母の友人宅にて魚の捌き方を教わる



ナショナルサーミデーでトナカイを頂く



Japanmarkt で作成した北海道紹介ポスター



喜界島で出会ったインターンの友人が
オランダを訪ねてきてくれた



長崎で出会った友人、今は家族のような存在